

耐震改修における構造デザインの実践と啓発活動

正会員 金 箱 温 春 殿

近現代建築における保存と活用において、その改修デザインはいかにあるべきかという議論は未だ成熟したものとはなっていない。その一方で、防災上の観点から耐震性能が不足していると判断された建物は原設計の価値にかかわらず半ば強制的に耐震補強という名目での改修を余儀なくされてきた。一般的に、耐震改修の方法は鉄筋コンクリート壁やブレース付き鉄骨フレームの付加、柱の補強などにパターン化されており、建物の個性を考慮することなくこれらの構法を適用することによって、耐震性能は向上しても、外観や内部空間など原設計で意図された建築の価値を著しく損なってしまう場合も少なくない。

受賞者は構造設計事務所の主宰者であり、建築家とのコラボレーションによって優れた構造デザインの建物を数多く生み出してきた実績を有している。その経験を生かして耐震改修においても建築家と対話し、単なる補強ではなく空間の質や外観デザインの向上を図る「建物価値を高める耐震改修」を目指し十年にわたり取り組んできた。その手法は従来型のパターン化された耐震補強構法にとどまらず、既存建物の外側に新たな空間機能を持つ耐震要素を併設する〈加える改修〉、中廊下型の校舎の上層階を撤去することで構造体の負担を減らすとともに開放的なアトリウム空間を提供する〈減らす改修〉、木造の歴史的近代建築物に鉄骨フレームを添わせ、内外装の雰囲気を保ちながら補強する〈添える改修〉など、さまざまなアプローチが試みられている。その眼差しは単に構造上の性能を高めるのみならず、建築の質、空間の質を維持し向上させることに対する深い情熱と努力に溢れている。

受賞者の取り組みはまた自らの設計活動にとどまらず、同様の考え方を学会・国際会議・雑誌・講演などさまざまな媒介を通じて国内外に発信するとともに、若手の建築家や構造技術者の育成を通じて技術や方法論を伝達することでより広がりつつある。これらの活動は若手建築家・技術者に活躍の場を与えるだけでなく、より自由なデザインを行わせることにより、とかく地味で取り組みにくい耐震改修の設計行為をより有意義で夢を与え得るものとしている。その波及効果は受賞者が会長を務めていた日本建築構造技術者協会における広報・啓蒙活動との相乗効果により、より一層高められている。

以上の活動は、単なる一連の構造設計作品の実現のみならず、建物の耐震改修における設計の考え方、建築家と構造技術者との協働体制、技術的方法論に至るまで、広範かつ社会的に大きな価値を与えるものと思われる。

よって、ここに日本建築学会賞を贈るものである。